

(様式 1)

令和 5 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬第二中学校
校長名	駒田 るみ子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>・全学年で国語と数学は全国平均を上回ることができた。</p> <p>・1 学年は、AB 層が国語は 57.6%、英語は 72.9%であった。DE 層は英語が 12.5%であった。</p> <p>・2 学年は、AB 層が国語は 62.0%、数学は 50.7%であった。経年比較をすると、国語は DE 層は 12.5 ポイント、社会は 10.1 ポイント、数学は 7.7 ポイント減少し、C 層が増加した。</p> <p>・3 学年は、AB 層が国語が 66.3%、数学は 50.9%、理科は 58.7%であった。DE 層は国語が 19.6%であった。経年比較をすると、理科は DE 層が年々減少しており上昇傾向である。</p>	<p>① 2・3 学年の成果が見られる教科について、研究授業を実施し指導法を共有し、学校全体で CD 層への学習支援措置（年IV期の学習補充教室）を行う。</p> <p>② 理科はさらに A,B 層の割合を増やしていくために、グループで全体に発表する時間を増やす等、発展学習の時間を確保できるようにする。</p> <p>③ 社会はふりかえりシートや毎月 2 回の小テスト等、学校全体で組織的に基礎学力の定着・向上を図る。</p> <p>④ 全教科において活用（記述、特に表現力）の力をつけるためロイロノートを活用した話し合い活動を行い授業改善を図る。</p> <p>④ 全学年対象の放課後学習補充教室を引き続き実施する。（3 学年の実力アップ講座も継続する。）</p>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p>・勉強するときは自分で計画を立てていると回答した生徒が全国平均より高い。</p> <p>・学校以外で平日の学習時間が 1 時間以上の生徒が全国平均より高い。</p> <p>・将来あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたい夢や目標があると回答した生徒が全国平均より上回っている。</p> <p>・3 学年は家族・友だち・先生のささえの全項目で全国平均より肯定率が高い。</p>	<p>① 自分の意見を発表することや質問に答えることを苦手とする回答が全国平均より低いため、ソーシャルスキルトレーニングや本校の話し合いのルールとして「もやしちゃんとあおいふく」を取り入れた話し合う指導法を共有・周知することが必要である。</p> <p>② 土日の学習時間が 1 時間以上の生徒数が全国平均よりも低いため、週末の課題を学校全体で計画的に出していくことが必要である。</p>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>・全学年で授業に集中して取り組む生徒が多く、授業規律が徹底されている。</p> <p>・吾嬬二中プロシージャ（別紙参照）を意識した授業をすべての教員が実施している。</p> <p>・全国学力・学習状況調査で国・数・英の全教科で知識・技能の平均正答率が全国平均を上回っている。</p>	<p>①（校内で実施している家庭学習調査結果より）一日の家庭学習の時間が短く、また定期考査前と定期考査後の家庭学習時間の差が激しいため、学年ごとの組織的な家庭学習の推進を行い、放課後学習補充教室を充実させる。</p> <p>② 吾嬬二中プロシージャを徹底した授業改善を行う。</p> <p>③ 教員全員が研究授業を実施し授業力の向上を図る。</p>

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎・基本の定着を図り、学んだことを応用し活用するための授業実践【授業改善】

- ①毎時間の学習のねらいを明確にした授業の実施、本時のまとめと各自の振り返りの時間の確保
 - ・吾嬭二中プロシージャの再確認し目的やねらいを掲げ、個に応じた指導の実践を図る。
 - ・学習内容のアウトプットを授業内に行い、さらに時間をおいて繰り返すことで短期記憶を長期記憶にして定着させる。
- ②区学力調査結果の分析及び学力向上プランの作成
 - ・入試問題や過去の学力調査の問題に取り組み、間違ったところを粘り強く克服させる授業を実践する。
- ③学習に取り組むための基盤作り
 - ・朝読書を通して読書習慣をつけるとともに、読解力、思考力、語彙の習得など幅広い力をつけられるようにする。
- ④数学・英語（習熟度別少人数指導）の効果的な実施
 - ・個々の力量に応じたクラスを編制し学習事項を定着させるために繰り返しの学習を進めることで学力向上を図る。
 - ・特に発展クラスでは、発展的な問題に多く取り組ませることで応用の力を高めていく。
- ⑤ICT 機器の活用
 - ・iPad 等を用い動画やロイノートやミライシード・タブレットドリルなどを目的に応じて活用し理解を深めさせる。

(2) ふりかえりシート等の効果的な活用と、定期考査、各種コンテストの実施【繰り返し学習】

- ①既習事項の復習や宿題として、各教科におけるふりかえりシート等の効果的な活用
 - ・9月、1月から3月を学習ふりかえり期間として各教科で授業内及び放課後にふりかえりシート等を活用し、個別に支援を行う。
- ②年4回の定期考査の実施
 - ・考査3週間前より学習計画表を作成し、家庭学習時間を意識させ1日の学習量の増加につなげていく。
 - ・定期考査前に吾嬭二塾・質問教室を実施するとともに、組織的に課題学習や朝学習の時間を設ける。
- ③授業における小テスト、確認テストの実施
 - ・日常的な小テスト、確認テストへの取り組みを通して、基礎的な学習内容の確認と定着を図る。
- ④計算コンテスト（9月）、漢字コンテスト（12月）、スペリングコンテスト、社会科コンテスト（年2回）の実施
 - ・コンテスト実施前に朝学習で取りませたり、宿題として家庭で取りませたりことで基礎を定着させる。
 - ・目標点に届かなかった生徒に対して、補習教室を実施する。

(3) 学習機会の拡大【D・E層の生徒の基礎学力の定着】

- ①質問教室や補習教室の実施（D・E層の生徒が対象だが、希望者の参加も可）
 - ・定期考査前や各種コンテスト前に放課後学習会（吾嬭二塾）を実施する。
 - ・すみだSSTを活用して、国・社・数・理・英の放課後学習補充教室・夏季補充教室を実施する。
 - ・3年生の希望者対象の実力アップ講座を通年で実施する。（毎週火曜日 通年実施）
- ②宿題を計画的に出す。（学校全体で取り組むため。教科担任が学年所属にいない場合でも定期的実施）
 - ・学習サイクルを確立するため、プリント・ふりかえりシート・ミライシード・タブレットドリルに毎日取り組む。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標（1）目標

- ・5教科45観点のうち、全国平均を上回る観点を30以上にする。
- ・社会・理科でD・E層の生徒の割合を全学年40%以下にする。
- ・1・2学年の全科目を全国平均以上にする。